

第 16 回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和 8 年 7 月 28 日（火）10:30～11:40

■場 所：周南市役所 庁議室

■出席者：下表のとおり

所属・団体名	役職	氏名	区分
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者
周南公立大学 情報科学部	准教授	児玉 満	
立命館大学 経営学部	准教授	赤木 真由	
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明	
筑波大学 システム情報系	准教授	浦田 淳司	
徳山商工会議所	指導課主任	船井 辰郎	関係団体 を代表する者
周南市スポーツ協会	主任	守田 真希	
周南市コミュニティ推進連絡協議会		黒神 充久	コミュニティ組織 を代表する者
周南市コミュニティ推進連絡協議会		岩崎 真之介	
山口県企画部デジタル推進局	デジタル統括監	田中 貴光	オブザーバー
周南緑地 P F I 事業者 (洋林建設株式会社)		山川 英一郎	

■配付資料

1. 第 16 回周南市スマートシティ推進協議会配席図
2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿
3. 第 16 回周南市スマートシティ推進協議会資料

資料 1 今年度の市の取組について

資料 2 市の公式 LINE について

資料 3 周南スマートシティデザインラボについて

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員総数 10 名中 9 名の出席をいただいておりますので、「周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第 6 条」の規定により、本会議は成立しておりますことを御報告させていただきます。
- ・ 会議の開催にあたり、企画部長より御挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部長)

- ・ 本日は、大変お忙しい中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。
- ・ 今回の協議会は、今年度の市のデジタル関連の取組をはじめとしまして、「周南スマートシティデザインラボ」の今後の展開、周南市公式 LINE の活用に関することを議題としております。
- ・ デザインラボの活動や、公式 LINE を活用した情報発信など、これらの取組が、市民の暮らしをさらに豊かで便利なものとし、その効果が実感できるものとなりますように、委員の皆様の忌憚のない御意見を賜りたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 議題

(会長)

- ・ この会議も第 16 回ということですので、結構長く続いてきております。
- ・ 取組をやるのが当たり前になってきて、何か新しいことを取り入れたり、近年で言えば AI がものすごく進展している中で、そういうものをどういうふうに結びつけていくかといったようなモーメンタムが生まれにくくなってきたりするところもありますので、ぜひ今日の会議でも、思うところを遠慮なくコメント等いただけたらと思っております。
- ・ それではまずひとつめの議題について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(今年度の市の取組について説明)

(会長)

- ・ ただいまの説明内容について、御質問のある方おられますでしょうか。

(委員)

- ・ 取組の運用がそろそろ2、3ヶ月経っている段階にあるかと思います。その間の利用率、どのぐらい利用されているのかという点と、利用にあたっての評判などについて、わかる範囲でよろしいので教えていただけたらと思います。

(事務局)

- ・ マイナ救急システムの拡充につきましては、4月から17件の活用がありました。
- ・ オンライン診療導入診療所の拡充につきましては、1例目として、令和6年度、和田地区の巡回診療所で導入しておりますが、導入した令和6年度の実績としては5件の活用がありました。その後、令和7年度は6件、令和8年度6月末現在では5件の利用実績がございます。
- ・ オンライン問診を活用した5歳児健康診査の開始につきましては、対象となる御家庭に通知を順次郵送しているところであり、実際にどの程度の利用があるかというところは、現時点で確認できておりません。
- ・ 生成AI学習アシスタントアプリの導入につきましては、運用実績としては、全ての周南市立中学校13校において導入しています。
- ・ デジタル採点システムの導入につきましても、周南市立中学校で導入しておりますが、小規模校を除いた11校で導入しています。
- ・ AI音声を活用した広報紙の音声化につきましては、ホームページの方で音声化されたものを聞くことができる状況ですけれども、それについての市民の反応等については把握しておりません。
- ・ 運用が開始されている取組について、利用された方の御意見などは、現時点で事務局として把握できておりません。他の取組への参考にもなりますので、今後確認し、共有させていただきます。以上です。

(会長)

- ・ デジタル採点システムの導入など、AIの活用が取組に入ってきていますが、取組に対する評価については各取組によって違うとは思いますが、それは横ぐしで共有してほしいと思います。
- ・ AI化とかスマートシティ化による副作用の出方も、ものによってはあると思いますので、スマートシティを進めるにあたり、“こういったことに気をつけていくべきだ”といったようなことが、共有していくことがとても大切だと思います。
- ・ デジタルに置き換えていいものと、人と人との関係を大切にしていけるべきものの見極めも大切ですので、ぜひ評価のところについて、年度の後半に向けて集めていただいて、さらにみんなで共有するような形ができればと思います。

(委員)

- ・ AI 学習アシスタントアプリの導入について、県が導入しているものを市でも利用しているということでしょうか。

(事務局)

- ・ はい。山口県が一括で導入し、それを各市町が負担金を支払って利用しているという状況です。

(委員)

- ・ このアプリを高専等で使おうと思った場合、何か手続きや予算が必要ということですか。

(事務局)

- ・ 対象となる学校を確認しておきます。

(委員)

- ・ 高専から大学に編入する場合、数学や物理などの基礎科目を学びたいという学生も結構いて、自主的にやらなければいけないことも多いです。
- ・ こういうものが受験対策等に使えたらいいので、利用できるようであれば利用させていただきたいと思いました。

(会長)

- ・ 令和7年度からの取組で周南市中心市街地占有データ分析業務というものがありますが、こういったところについて何か、統一で蓄積していくことが大事な反面、データをとってはみたものの活用できないみたいなこともあったりするもので、ここも評価が大事かと思います。何かコメントございますか。

(委員)

- ・ 御幸通の利活用の議論が都市政策課の方で起こっていて、昨年度実験したときにその前後と実験中のデータを取ったということです。まだそれをどんだ表に出して、というところではないかもしれませんが、どのぐらい効果があるのか、デジタル化だけでなく実際の都市空間でどう変化していくのかというところは、大事だと思います。
- ・ 取組全般については、デジタル化を取り入れて1年目はわずらわしい思いをされる職員の方も多いと思いますが、この16回の中で、令和6年度の取組、令和7年度の導入、などがありますので、2年経ち3年経つとどういうふうに使いが変

わったかといったようなところもまとまってくると、どんどん取り入れようという職員や部署が増えていくのかなと思います。

- ・ 実際のアウトプットの数値そのものでなく、市側としての立場や方向性みたいなものを少しずつ積み重ねていくと、どんどん広まっていくのかなという風に思いました。以上です。

(会長)

- ・ 続きまして、「市の公式LINE」について、説明よろしくお願いします。

(事務局)

(市の公式LINE について説明)

(会長)

- ・ 登録 52,000 人ということですので、かなりの規模のメディアになってきているということだと思いますが、一方で、狼少年効果といったようなこともあります。
- ・ 有効な情報がどれだけ LINE から発せられているか、委員も先ほど言及されていた評価のところ、とても大切だと思います。
- ・ LINE の情報発信の既読率みたいなものは、市で評価されているのでしょうか。

(事務局)

- ・ 既読率までは把握しておりません。

(会長)

- ・ 一度『市の公式LINE どうですかアンケート』みたいなことも、やってみてもいいのかもしれないなと思います。
- ・ アンケートそのものを LINE で流せると思いますので、そんなに問題数も多くせず簡単にできる範囲でやるとか、他の自治体が公式LINE でどんな工夫をしているのか、といったケーススタディみたいなことも、デザインラボと連携するような形でやると有効かもしれません。
- ・ 52,000 人というかなり大きなメディアに育ってきていますので、どうやって今後使いこなしていくのかというところについては、何らか研究だったり調査だったり必要なと思いますので、その辺り今後御検討いただけたらと思いました。
- ・ 次に、「周南スマートシティデザインラボ」について、事務局から説明してください。

(事務局)

(周南スマートシティデザインラボについて説明)

(会長)

- ・ 非常に順調に進んでいるところ、という評価になると思います。
- ・ 市でテーマを設定していますので、自発的なテーマの設定や地域の課題など、こうしたらどうかといったこともあろうかと思いますが、ぜひコメントいただけたらと思います。

(委員)

- ・ 昨年度の検証項目と評価について2点あります。
- ・ インスタグラムのフォロワー数が伸びなかった点について、今年度はより更新頻度をあげるとか、事務局だけでなくアシスタントなどからも記事をアップできるようにするなど事務プロセスの工夫をして、フォロワー数を伸ばせるといいなと思っています。
- ・ 活動主体を対象にしたアンケートについて、課題ホルダーの満足度が低く、参加者である企業や学生の満足度が高いという結果になっています。今年度は、課題ホルダーの皆様をフォローする必要があると判断し、5月に一度ワークショップを開催しました。
- ・ また、昨年の反省点として、実装に向けたビジョンが描きづらかったという部分がありましたので、最終発表会の日程を年内12月とし、2027年1月以降は、実装に向け課題ホルダーと一緒に検討していく、というところをプログラム設計で工夫しました。
- ・ 課題ホルダーの負荷が高いのではないか、ということもあり、市以外の課題ホルダーを見つけづらい、ということも現状の課題だと思っています。

(会長)

- ・ 的確にフォローしていただいて、非常にたくさんコメントいただけたことと思いますが、議題としてはここまでですので、デザインラボの話でも構いませんし、全体についてでも構いませんので、ぜひ御意見等いただけたらと思っております。

(委員)

- ・ 今年度の取組で、周南市にいる若者が周南市に定着するような対策をとということで、参考になるかわかりませんが、周南公立大学と徳山高専は、昨年度、今年度と、東京で長州デジタル人材山口企業誘致セミナーに参加しています。
- ・ 今年に入って3回くらい岩国市の方が企業の方を連れて来られて会話をする中で、都会では採用しづらいので、サテライト的に、地方での職場環境づくりということを考えている企業も結構いるという話を伺っています。周南市でもぜひ、そういう取組が活発になったら良いのかなあという気がしております。

(会長)

- ・ 非常に重要な御指摘だったと思います。

(委員)

- ・ 今回、周南公立大学生が市内で働くために、という周南市らしいテーマになっていると思いますが、去年の反省として、1年というか半年の中で解決策を具体化するところまでは行きづらい、というところがあったと思います。
- ・ 事業者、市職員、大学職員と、こういう機会がないと一堂に集まれるメンバーではないと思うので、こういったメンバーが集まって議論するという場を継続的に持つこと自体が大事なかなと思っています。

(委員)

- ・ 徳山商工会議所が、今年度まちなかキャンパス検討委員会という、中心市街地にキャンパスを誘致しようという専門委員会を立ち上げております。今年度に入って数回会議を重ねており、いずれ何かしら要望という形で公表するとは思いますが、こちらについては、当所の役員などがメンバーとなって集まり、協議しているところ です。
- ・ そういった事例について近隣他県でいうと、来年にはなりますが、北九州市立大学が旦過駅の再開発事業に関わるという取組があります。
- ・ 周南市役所にも、周南公立大学から今年度かなりの人数が入庁されたということですが、学生が就職を選ぶ先として、よく知っているところだけではなく、地元にも学生に知られていない企業がたくさんあります。企業や地域コミュニティなどに関わることで、企業を知り、学生の人材育成という面においても、そういった取組をすることは非常に大事なことだと思います。

(委員)

- ・ 当協会でも、スポーツのイベントや教室をする際に、学生に地域のスポーツに関わっていただくことが多いのですが、大学を卒業されてから地域の方と関わる学生もいると思います。また、周南市のスポーツ関連の取組についても、中学校の部活動の地域展開がいよいよ始まるところです。
- ・ 市内の指導者の高齢化も、当協会の中で課題に上がっているところでもありますので、周南市内に学生が残り、地域のスポーツに関わっていただくことで、当協会の課題解決の一助になるのではないかと思います、楽しみにしております。

(会長)

- ・ スポーツの担い手、地域スポーツの振興という意味でもとても大切ですね。

(委員)

- ・ イメージとしては2点あり、1つは、公立大学生が卒業してどうする、という話ですけれども、もうほぼ成人を迎える年齢なので、各々自分の人生は自分で決めていければいいんじゃないかなというのが率直な意見です。
- ・ もう1点。僕も会社を営んでおりますので、会社の代表としての思いとすると、大学生たちが就職する裾野を広げることにはできると思うんです。それは就職先がもっと、30あるのが200ぐらいあった方が、選択肢が増えるので、そういう努力はできるんじゃないのかなと思っています。
- ・ 僕の周りのいろんな代表者の方と話をする機会がありますが、ほとんどの会社が、求人を出し方がわからない、出す余裕がない。結果、体力がある会社というのは、職安に出したり、ネット広告を出したり、いろんなことをする体力があるので、できると思うんです。いろんな就業セミナーに出ていくなど、やっていることもあるんですけど、ほとんどの中小零細企業は、人材は欲しいけど、“就職してください”と案内する時間も余裕もないというのが実情だなと思います。
- ・ そこも踏まえてしっかりやると、大学生の裾野がしっかり広がっていくんじゃないかなと思うので、母数を増やす努力をもっとしていけば、周南公立大学の卒業生も周南市に残る可能性は十分増えるのではないかと思います。

(会長)

- ・ 母数を増やすというところ、結構重要な御指摘いただいたことと思います。ありがとうございます。

(委員)

- ・ 全体的なところになるのですが、周南市の取組は、実績の報告があるように年々進んできていますが、この協議会で協議された内容が、この取組に含まれていけばいいというのが正直な感想です。
- ・ 協議会で、そういったことをやったらいいんじゃないかっていうところが、市の取組にあがっていくところが、本来の協議会の目的なのかなと。私はどうしても結果を求めてしまうのがいけないかもしれませんが、そういったところを感じました。

(会長)

- ・ 次回でもいいので、協議会のメンバーの方から提案みたいなこともできるような議題を設けていただけたらと思います。ラボも立ち上がってますので、何か、議論できそうかどうか、といったことを検討していただいて、次年度例えばこんなこと、みたいな動きができると。LINE含めてですね。
- ・ 委員からの提案、素敵な提案だと思いますので、ぜひそういった協議会の立てつけ

方、意見の出してもらい方や展開の仕方についても御検討いただけたらと思います。

(オブザーバー)

- ・ 私から2点ありまして、まず周南スマートシティデザインラボについては、昨年度も拝聴させていただきました。今年度もそれを踏まえて取組を進められているということで、素晴らしいなと思います。
- ・ 取組の後、実装をどうしていくかっていう話が一番難しいと思っています。県でも、デジタル社会の実装事業みたいなことに取り組んでいます。来年度どうなるかというところは明言できないのですが、今の周南スマートシティデザインラボの中でいろいろ検討されている中身について、例えばその県の事業でもしお使いいただけるものがあれば、それをお使いいただければと思います。
- ・ 実装までいこうとすると、いろいろ参画されている方々の人的リソースとか費用的なリソースとか市の予算等々あると思います。その辺りもうまく連携できればいいなと思いましたので、今年度はその辺りの状況も踏まえて、意見交換できればなと思います。
- ・ もう1点は、冒頭に会長から「AI等々いろいろ進んでいますよね」という話があったかと思います。県のデジタル推進の部署も、来年度に向けて検討を進めようとしております。皆さん御存知のとおり、AIの領域が、“出てきた”というフェーズよりも、当たり前“使う”フェーズに来ていると思っています。技術の不可逆性といったところに当てはまると思いますが、昔ファックスでやりとりしていたものがメールになり、AIを“どう使っていくか”というフェーズに入ってきていると思います。
- ・ とはいえ、必ずAIを使わないといけないという話ではないとは思いますが、今後はスマートシティ推進協議会の中でも、いろいろな領域に対してどうAIを活用できるかというところについては、議論できればいいなと思います。
- ・ AIエージェントやフィジカルAIという話も取り沙汰されていますので、その辺りも含めて、何か議論できればと思います。

(オブザーバー)

- ・ スマートシティデザインラボは非常に有効なプラットフォームで、困りごとやニーズを発信すれば解決していく方法が示されているので、参加された方の満足度も高いということですし、参加するまでがハードルだろうと思います。
- ・ ラボが、実装というか一般化するときに、まず具体的にどうやったらスタートできるのかがわかりやすくなれば、何年後かには非常に有効に活用されて回っていくようになるのではないのかなと思いました。

- ・ デジタル関連の取組の部分で、建設会社の立場から感想を持ったのは、医療関係、マイナ救急システムの拡充についてです。我々も富海の拡幅事業、長門俵山の拡幅事業などを国交省と連携して工事するにあたって必ず出るのが、“この工事によって救急車が何分早く着くようになるのか”ということです。工程を遅らせたなら何人が亡くなってしまうのか、常に発注者様からと言われることで、受注者側も意識して施工しております。
- ・ ハード面を私ども建設業界の努力と、マイナ救急システムの拡充といったソフト面、こういったことが連携していけば、目的は一緒だと感じるので、今後も、両面からバックアップして進めていければいいなと思いました。

(会長)

- ・ 若者が周南市で働くということに関して言いますと、例えば松山市ですと、市制100周年を記念して、松山愛郷会という東京出身の松山在住者の同窓会のようなものを組織していて、そこにU30の会を作ったんですよね。愛郷会会員は800人なんですけど、LINEで繋がっている東京の若者100人ぐらいが入ってくださって、その中で地元のUターン、例えば徳山高校の子が東京で就職するんだけどまた戻ってくるとか、転職で戻ってくるとか、そういうタッチポイントとして、うまく機能しているということもあります。
- ・ 市の公式LINEが5万人ぐらいということなんですけど、タッチポイントをうまく若者に対して作っていくとか。ラボもありますので、活動して、東京とか大阪に行った後も、アルムナイという形で、“周南で働くのもいいかなあ”みたいな。そういうのも効果的だと思いますので、ずっと周南市にいたくちやいけないということではなくて、大学とか外に出てもいいんだけど、戻ってくる際の弁を開くみたいなことを、スマートシティという枠組みの中では非常に得意なところだと思いますので、そうしたこともぜひお考えいただきたいなと思いました。
- ・ あと、委員がスポーツの担い手の話をされました。地域スポーツが盛んなところは、高校の部活等の人間関係で、先輩後輩や同級生の関係が残っていて、例えば、“草野球みたいなことやりたいから戻ってくる”という人、いると思います。
- ・ 地域スポーツの発展というのは、実は、地域に戻ってきってもらうために結構有効なものという気もします。あれだけの緑地があって、いろんなことができるという中で、クラブスポーツ化とかシビックプライドに繋がるような何か活動を、デザインラボなどの中でも調査しながら、いい支援をお願いできればと思います。
- ・ スマートシティの活動が、いろんなスポーツとかお祭りとか商工会の方々の活動などとも結びつきながら、“戻ってきたい、やっぱり周南で生きていきたい”という思いにも繋がると思います。本日の意見にもあったように、この協議会の中

で出た委員からの提案をデザインラボの取組と結びつけながら検討していただけたらと思いました。

- ・ 全ての委員から御意見いただきましたが、事務局から何かありますか。

(事務局)

- ・ 委員の皆様、お忙しい中お時間を作っていただいて、貴重な御意見を聞かせていただけた大変大切な場ですので、ここでいただいた御意見を、市の内部にもここでのお話を反映させる方向で進めていければ、周南市が全体的に盛り上がっていく方向になるのではないかなと思いました。
- ・ まず次の協議会に向けて、今日いただいた意見を整理して、担当内で協議したいと思います。

(会長)

- ・ あと、委員が言われていたInstagramフォロワー数が約 30 人というところ、すごくいい活動をしているので、ネットでのタッチポイントを上手く作りたいですね。
- ・ この発信は今学生がやっているのですか。

(事務局)

- ・ 発信者は受託者である周南公立大学です。

(会長)

- ・ なるほど。委員の研究室でもInstagramをされているのですが、研究室のフォロワー数はどれくらいですか。

(委員)

- ・ 3年かけて100人までたどり着きました。学生に「もっとフォローした方がフォロワーは増える」と言われるのですが、あまりフォローしてないです。時々誰かをフォローすると増えるらしいです。

(会長)

- ・ 委員の苦労話とか、ぜひ共有していただけたらと思います。

(委員)

- ・ 誰かフォロワーをたくさん持っている人にリツイートしてもらおうと、たくさん見てもらえる人が増えるので、最初の第一歩というところ。あとは、自分自身でどんどんいろんな人をフォローしていくというところだと思います。

- ・ デザラボは、扱いが少し難しくて、デザラボ自体がどこまでフォローしていいのかという点がありますので、増えづらいのかなという気もします。

(委員)

- ・ 補足すると、去年は各チームに学生のインスタ投稿担当を作って、彼らが記事を書いて、それを周南市と周南公立大学とが確認し、修正したものを周南市が投稿するという運用にしました。

(会長)

- ・ リスク防止ですね。

(委員)

- ・ チェックのシステムを早く回せれば、更新頻度もあがるし、タイムリーな情報になると思うんですよ。タイムリーな情報は、やはり魅力的ですよ。そこが、デザラボのインスタは弱かったのかなと思ってます。

(会長)

- ・ ただ、あまり無理してもというのもあるので。学生がやって、一応やり方覚えて、中ではチェックしていただいて、というやり方結構いいと思いますので、やり方をどんどんブラッシュアップしてもらえたらと思った次第です。
- ・ それでは最後に事務連絡について、お願いいたします。

4. 事務連絡

(事務局)

(事務連絡について説明)

(会長)

- ・ 生成系 AI がこの数年で爆発的に性能を上げていますので、周南市の中で、どうやって AI を使っていくのかという理念みたいなものを、このスマートシティ推進協議会がそういった検討の場になるのかどうかということもありますが、作っていくタイミングなのかなという風には少し思っております。
- ・ データリテラシーの話ですとか、よくヒューマン・イン・ザ・ループなど言われますけれども、やはり人間中心でやっていくこととか、デザインラボもありますので、ノウハウとしては溜まりつつある状況だと思います。
- ・ 経験から出てきた周南市なりの AI やスマートシティの理念みたいなものを、もう 1 回つくり直すようなタイミングかなと思いますので、今後に向けて、各委員さ

んからの提案とあわせて、ぜひそうした視点の議事の設定をお考えいただけたらと思います。

- ・ 委員の皆様の意識が高くて、問題意識もある中で御意見をいただいていますので、発展的に周南市が使っていくような、良いループができると思います。

5. 閉会

(事務局)

- ・ 本日は長時間にわたり御議論いただき、また貴重な御意見賜りまして、誠にありがとうございました。
- ・ 様々な御意見をいただきました。次回以降、しっかり整理しながら進めていきたいと思っております。
- ・ 17回の協議会につきましては、また改めて日程調整させていただきますので、どうぞよろしくお願いします。
- ・ それでは以上をもちまして第16回周南市スマートシティ推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、オブザーバーの皆様、本日はありがとうございました。